

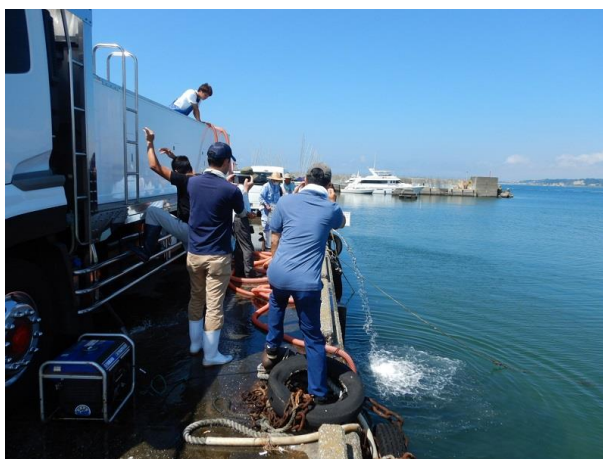
●浜の話題

- 8月20日、横浜市地先で、当センターの普及指導員と海況担当の研究員が溶存酸素調査を行いました。調査地点にはあなご漁業者がアナゴを餌切り（活魚出荷の前に消化管の中を空にする行程）するための活場（いけば）があるため、真夏の水温の上昇や貧酸素水塊からアナゴを守る目的で、当センターが随時活場の水温や溶存酸素を測定しています。測定の結果、この日の水温、溶存酸素量は特に問題のない数値であったことを漁業者に伝えました。



溶存酸素量を測定している様子

- 8月20日、葉山町漁協は（公財）相模湾水産振興事業団と（公財）県栽培漁業協会の支援を受け、平均尾叉長66mmのマダイ種苗15,000尾（事業団5,000尾、協会10,000尾）を葉山港の岸壁から放流しました。マダイは漁業者だけでなく遊漁船も多く釣獲しており、放流経費の一部にはマダイ遊漁協力金が活用されています。



漁港の岸壁からマダイ種苗を放流している様子

- 8月20日、腰越漁協は（公財）相模湾水産振興事業団と（公財）県栽培漁業協会の支援を受け、平均尾叉長66mmのマダイ種苗18,000尾（事業団8,000尾、協会10,000尾）を腰越漁港の岸壁から放流しました。放流されたマダイ種苗はみな港外に向かって元気に泳ぎ出して行きました。
- 8月31日、長井町漁協所属漁業者のワカメ種系育成小屋を普及指導員が巡回し、小屋の環境や種系の状態を確認しました。育成小屋内の水温が28℃と高く、高水温が苦手なワカメ種苗を夏眠させるため小屋内は暗く保たれていました。長井地区では、早生系と猿島系の2種類のワカメ種系を生産してい

ますが、顕微鏡で観察したところどちらも健全に夏を越している様子が確認されました。

●お知らせ

- 9月7日、当センターでは令和2年8月から12月までの長期漁海況予報を発行しました。これは7月に（国研）水産研究・教育機構水産資源研究所が開催した会議での検討結果をもとに本県海域の漁海況予報をまとめたもので、概要は以下のとおりです。

予報概要（詳細は下記URL参照）

海況：黒潮はA型基調で推移するものの、一時的にB型になることがある。沿岸水温は平年並みから高めで推移し、暖水波及時には極めて高めとなる。

さば類（マサバ、ゴマサバ）：来遊量は前年を上回る。

マイワシ：来遊量は前年を下回る。

カタクチイワシ：来遊量は低調な前年並。

マアジ：来遊量は前年並。

当センターでは年2回予報を発行していますので、これからの操業の参考にしてください。

- ・長期漁海況予報URL：

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/mx7/cnt/f430693/p1101542.html>